

集中講義「精神保健」へのアクティブラーニングの導入と教育心理学的成果

糸田尚史*

(名寄市立大学保健福祉学部社会保育学科)

キーワード：アクティブラーニング、集中講義、精神保健、教育心理学

1. はじめに

アクティブラーニングで著名な教育心理学者 溝上慎一氏を当時いらした京都大学から名寄市立大学にお招きし、特別講義（講演及び模擬授業）をしていただいたのがきっかけで大きく啓発され、保育や家庭支援の専門職者を目指す学生たちを対象とした集中講義「精神保健」でのアクティブラーニングの導入を試みた。

「15 コマの授業を普通ならば半年かけてじっくり学ぶものを 4 日でやると知ったときは未知すぎて頑張らないと不安に思っていました」と学生が述べたように、10 時 40 分から 17 時 50 分までの 90 分×4 コマの講義を 4 日間連続して集中的に受講するという体験は 2 年生の彼女たちにとっては初めての未知なるものであった。そこで、90 分×15 回を長くて苦しい学修と感じさせないためにも、座学での講義だけでなくアクティブに学修できる内容も加えることは教育心理学的にもより深い学びへと進化させられるに違いないと考え、アクティブラーニングにかかわる研究的な授業実践を行ってみることとした。

2. 問題

アクティブラーニングとは、中央教育審議会答申（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて：生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」（いわゆる「質的転換答申」）によれば「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」であるとされ、溝上（2015）によれば「一方向的な知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う」などとされている（松下・京都大学高等教育研究開発推進センター）。

このアクティブラーニングにかかわる文献としては、教育社会学の立場からアクティブラーニングの現状と課題を懐疑的に論じた小針（2018）などもあるが、アクティブラーニングを実際に導入・試行するにあたり参考となるのはやはり心理学・教育学を専門とする溝上（2014）、溝上（2018a）、溝上（2018b）、教育方法を専門とする松下ら（2015）などによるものである。

また、それ以外にも、本稿ではアクティブラーニングにかかわる教育実践と省察を行うにあたり、プリチャードとウーラード（原著 2010 / 邦訳 2017）、安藤（2018）、グレイ（原著 2013 / 邦訳 2018）などの論考も参考とした。

3. 方法

まず、保育者養成カリキュラムの選択科目「精神保健」の授業を次のようなシラバスに基づいて実施する

* 責任著者

糸田尚史 itochan@nayoro.ac.jp（メールアドレス）

計画を立案した。

1) 授業のねらい

児童や養育者の「心（精神）の健康」に関して学問的に学び、親子に対する適切なかかわりについて考え、実践できるようにする。子どもや保護者が示す多様な心（精神）の症状や行動を、心理学・社会心理学（文化人類学）・社会学などの行動諸科学から多面的に深く理解し、保育専門職者の立場から臨床発達心理学的な介入と支援を実際に行っていく方法について学修することを目的とする。

2) 到達目標

(1) 社会関係（対人関係）において対象者が示す心（精神）の症状とメカニズムを、根拠をもって説明できる。(2) 心（精神）の健康の問題に関する知見や理論を身につけ、妥当な対処方法を考えることができる。(3) 行動をつかさどる心（精神）が健康であることの意義を理解し、科学的な対人援助技術を実践できる。

3) 授業方法

動画・写真・図・漫画・挿絵といった視聴覚教材を中心に構成したスライド（パワーポイント）による講義と、それらを根拠とした実践的な演習（ディスカッション、グループワーク、フィールドワークなど）を児童相談所や児童家庭支援センターでの実務経験からアクティブに行う。また、一回の講義毎に「気づき・学び」等を記したレスポンスカードの提出を求めるが、その作成過程においても学修事項の定着をはかってほしい。

4) 事前事後学修

教科書（1冊）と参考書（10冊）の紹介に加え、スライドをプリントアウトした資料及び関連資料はかなりの量にのぼるため、それらにも目を通していただいて知識や理解を深める事前・事後学習は不可欠となる。

5) 授業計画

第1回 現代社会と精神保健：社会の変化と心の健康、第2回 心と行動の理解（1）：心の健康と脳科学、第3回 心と行動の理解（2）：心と症状行動との関係、第4回 心と行動の理解（3）：心の健康維持、第5回 心の発達と心の健康（1）：良好な環境での学び、第6回 心の発達と心の健康（2）：心を健康にする介入、第7回 心の発達と心の健康（3）：心を健康にする遊び指導、第8回 心の発達と心の健康（4）：アタッチメント（愛着）の生涯発達、第9回 心の発達と心の健康（5）：健康な心の生涯にわたる発達の支援、第10回 人間関係と心の健康（1）：社会関係（家族・仲間集団等）における心の成長、第11回 人間関係と心の健康（2）：心理療法（カウンセリング・家族療法等）による心の健康回復、第12回 危機と心の健康（1）：クライシスに対するコンサルテーションと専門職連携（IPW）/ 連携教育（IPE）、第13回 危機と心の健康（2）：心の健康を蝕む情緒・社会的な諸問題（虐待・非行等）の予防、第14回 危機と心の健康（3）：一次障害（神経発達症等）と二次障害の予防、第15回 危機と心の健康（4）：心理的ストレスへの対処（コーピング）

6) 成績評価の方法

到達目標（1）・到達目標（2）・到達目標（3）を測定する試験（60%）、到達目標（1）・到達目標（2）・到達目標（3）を測定する授業毎のレスポンスカードの記述内容（20%）、演習・実践・グループワーク等への主体的参加状況（20%）により評価する。

7) フィードバックの方法

毎時間、レスポンスカードに記載していただいた内容に関してはすべて読み込んだうえで、その後の講義・演習と関連づけながらコメントしていく。質問等にも随時、口頭やメールで応じる。

8) 履修にあたっての注意

講義室での座学と実習室での演習とを交互に配置して集中講義により行う。精神的健康を促すための実際

的な指導法を修得していただく活動では動きやすい服装で積極的な参加をお願いしたい。

9) 教科書

陳省仁・古塚孝・中島常安編著 糸田尚史ほか著 『子育ての発達心理学』 同文書院 2003

10) 教科書・参考書に関する備考

授業では教科書（『子育ての発達心理学』）と配布資料を使用する。試験ではその両方から出題する。授業時間外での積極的な学修も期待し、本講義と関連のある下記の参考書（コミックス・絵本・専門書）以外にも、精神保健に関係するDVD映像（洋画・邦画・ドキュメンタリー等）を数多く紹介する。

11) 参考書

- ①樹村みのり 『樹村みのり作品集 [子ども編] 悪い子』 ヘルスワーク出版 1999
- ②萩尾望都 『イグアナの娘』 小学館 2000
- ③このの史代 『夕凧の街 桜の国』 双葉社 2004
- ④宮本輝（選）・住出知代（著） 『父の目方』 光文社 2004
- ⑤西村香栄 『まんまるねこダイナ』 小学館 2005
- ⑥あきやただし 『さかさのこもりくん』 教育画劇 2006
- ⑦小山充道（編著）・糸田尚史（著） 『必携 臨床心理アセスメント』 金剛出版 2008
- ⑧坂本健（編著）・糸田尚史（著）・小川恭子ほか（著） 『子どもの社会的養護』 大学図書出版 2011
- ⑨五十嵐隆（総編集）・石井正浩（専門編集） 『改訂第2版 小児科臨床ピクシス』 中山書店 2014
- ⑩北海道日本ハムファイターズ選手会（作）・堀川真（絵） 『もりのやきゅうちーむ ふあいたーず』 北海道新聞社 2015

つぎに、この授業へ、溝上（2014）が批判的に紹介している 講義（5%） / 読解（10%） / 視聴覚教材（20%） / デモンストレーション（30%） / グループディスカッション（50%） / 活動や体験をする（75%） / 他者に教える（90%）とされる「知識の定着率を表すラーニングピラミッド」を参考に、①講義（動画・写真・図・漫画・挿絵等が必ずペーストされた視覚的にも面白いスライドによる授業）、②読解（貞方宏著「行為の喪失の時代」論文詳読）、③視聴覚教材（映画『レインマン』の視聴）、④デモンストレーション（前頭葉の発達を促す創造的な手遊びの学習と示範）、⑤グループディスカッション（グループでの絵本の読み聞かせと議論）、⑥活動や体験をする（親子遊び方教室の開催、寄り道散歩マップ製作のための学内フィールドワーク）、⑦他者に教える（寄り道散歩にかかわる“お便り”の作成）といったアクティブラーニングを加え、試行した。

最後に、最終コマで講義全体の感想を受講生全員に書いてもらい、その記述内容からアクティブラーニング導入の成果を評価するという方法を用いた。

4. 結果

全講義終了後に集められた受講生全員の文章から、一人ずつアクティブラーニング導入の教育心理学的成果と思われる部分を抽出して以下に原文のまま示す。

【学生1】授業を通して、どういう保育士になってどういう保育をしたらよいかということが具体的に分かり、考えられるようになりました。また座学だけでなく、沢山の面白い絵本や遊びの工夫も知れて、とても勉強になりました。それだけでなく、自閉症スペクトラムの子どもの心理や関わりも学ぶことができ、保育全体の知識を吸収できた気持ちです。私は、戦争の起きない未来を望み、そして、インクルージョンの世の中を目指し、子ども達1人1人の才能を引き出し、自分のやりたい事に向かっているよう促し、遊びを通して非認知的能力を育めるそんな保育士になりたいと思いました。時間がなくてあまり書けませんが、これからも沢山の遊び、絵本にふれていきたいです。たった4日間は悲しいです。ありがとうございました。【学生2】先生の授業は楽しいなと思いました。【学生3】この授業は実際に動いて体験する場面も多く、映像やまんがも効果的に使用されていて、先生の話も面白く、楽しく参加することができました。【学生4】4日間にぎっしりとつまった講義でしたが、その中で

今までの復習になるものや新しい見方のこと、そして新しい知識を学ぶことができました。楽しい、これからも行いたい遊びも教えていただきました。【学生 5】さまざまな事をプリントや映像で学ぶことができました。今まで知らなかった事やもっと詳しく知れたことがあったのでこの4日間とても勉強になりました。【学生 6】興味を持っている分野や勉強してみたい分野がとても多くて、とても面白かったです。たくさんの刺激を受けました。4日間とても授業が面白くて、もっと受けたくくなりました。【学生 7】先生の体験談をまじえながら話してくれたことで、頭の中でその場面が想像でき、事象とその場面にはこの知識が必要なんだということがよくわかり、多くのことを学ぶことができましたと感じています。毎回の授業が全力で、先生が楽しそうに色々教えてくれるので、私も楽しかったです。【学生 8】アクティビティがたくさんあって楽しかったです。私の知らない手遊びや歌がたくさんありました。【学生 9】4日間の集中講義を終えて改めて身体を動かすことの大切さを学びました。【学生 10】全15回の講義を本当にありがとうございました。とても良い講義でした。先生の講義には沢山の映像作品や絵、写真等が載っており、わかりやすかったです。又、先生の教え方は1つ1つが丁寧でありほぼ毎講義で内容を理解することができました。特に私が凄いと感じた講義が“ストレス”と“象徴”の説明でした。一瞬で私の理解へとつなげていく先生に感動しました。又、座学だけではなく積極的に演習も取り入れてくださり、楽しく学ぶことができました。私は絵本が好きな為、幸せな時間でした。映画“レインマン”もとても良く、自閉症や発達障がいについて学ぶことができました。あの2時間と少しで彼らについて理解することができる作品は中々ないと感じます。帰ってすぐ母に話し、母も見ていたそうで盛り上がりました。この講義で外に散歩をしに行けると思っていなかった為、それも凄く良かったです。皆で仲良く歩き、秋の季節を感じ、とても楽しく、大学生活をしていると感じました。この講義は今の1年生にぜひオススメをしたいです。本当に受講して良かったです。ありがとうございました。

【学生 11】私はこの精神保健を受けて、多くの学びを得ました。先生の授業のおかげで、実際の現場で活かせる多くのことを学ぶことができましたと思います。この授業を受けてよかったです。素敵な授業をありがとうございました。【学生 12】この講義では多彩な分野にわたって学んだことが多かった。考えるだけでなく体験して身体全体でわかることを知ることができた。最終的に、非常に面白い講義だったと思う。【学生 13】自閉症や発達障がいなどについて改めて感じることを、学ぶことがたくさんありました。【学生 14】この授業では、講義と実習があって、受けていくうちに2つはつながっており、講義で学んだことに関わることとして手遊びや親子遊びが設定されていたので、とてもわかりやすかったです。ためになりました。楽しかったです。【学生 15】今回の授業では、映像をたくさん見たり、先生の経験をたくさん聞いて、初めて知ることたくさんあったし、今まで自分知っていると思っていたことも、実は分かっていなかったこともあって、とても勉強になりました。今回の授業で感情や脳のことを少し深く知れておもしろかったです。まだまだたくさんを知りたいと思いました。たのしかったです。【学生 16】4日間の授業、受けて良かったなと思っています。見たい映画作品もたくさん増えました。これからゲオとかでDVDを借りて、家で見ようと思います。もっともっと面白い絵本や遊びを知りたいと思いました。【学生 17】キャンパスの外に出て遊びをさがしてみると、わくわくするようなものがたくさんありました。これから役立つことをたくさん学ぶことができました。【学生 18】まず糸田先生はとても楽しくて面白くて素敵でした。そして優しく面白いババさんだと思いました。精神保健では映画や映像をまげながら自閉症やADHDなどの障がいをもっている人たちの症状や接し方を改めて学ぶことができました。とても楽しい授業でした。【学生 19】精神保健の授業を受けてみて、新しいことも学べたし、今までやってきたことの復習にもなり、とても勉強になりました。子育てに悩んでいる親にとって、子育て支援などはすごく必要とされる場なのだと感じました。精神保健を受けて、たくさん学ぶことができ、さらに発達や子どもについてたくさん考えることができとても勉強になりました。4日間本当にありがとうございました。とても楽しい授業でした。【学生 20】これからの実習ですぐに実践できそうなものばかりでこの講義からどんどんつなげていこうと思えるものになりました。座学以外でもたくさんの学びがあってとても濃い4日間になりました。【学生 21】子どもが飽きないようにすることはとても大事だと改めて学びました。“動”と“静”、この2つを交互にバランスよく組み立てることが、最大のポイントだと学びました。さらに、これは幼児に限るのではなく、今回の先生の授業の組み立ても“動”と“静”のバランスでできていたということに気づきました。先生の授業の進め方はもちろん、話し方や表現の仕方も。飽きずに15コマを終えることができました。子ども関連の仕事は、子どもの将来を見すえた保育をしなければいけないことをこの講義で学びました。授業楽しいです！【学生 22】アンジャッシュのネタは小さいころから見えていましたが、それがサリーとアン課題に似たものというのには気づきませんでした。手遊びのアレンジで前頭前野が働くというふうに考える

と、手遊びって子どもの成長に大きく影響するものだなと思いました。4日間たのしかったです！ たくさん参考にしたいことがあり、勉強になりました。【学生 23】座学もエクササイズもたくさんある充実した4日間でした！ その中で自分が印象に残っているのは、ものを使わない身体を使った親子あそびです。4日間ありがとうございました！ とっても楽しかったです！

【学生 24】精神保健というネーミングにひかれてこの授業に参加したのですが、今まで大学で習ったことの復習や初めて習ったこと、手遊びの工夫など、保育の勉強をしている私にとってすごく勉強になる授業でした。たのしかったです！！ 【学生 25】今回、精神保健の集中講義を受けてみて、一言で言うと驚きの連続でした。正直、今までに受講したことのないような内容だったし、手遊びや読み聞かせといった面では、今までこうだ！と自分の中でレッテルをはっていたものがきれいにこぼされた感じでも楽しかったし、興味深かったです。また、私の関心分野である“障害”にスポットライトをあててお話を下さったのも、とても印象に残りました。1番印象深かったのはレインマンでした。自分の目指す保育というものがはっきりと見えました。4日間の集中講義という短い時間の中でとても大きな収穫ができました！ 本当に短い間でしたが、ありがとうございました。すごく楽しかったです。【学生 26】私が想像していた精神保健と違って本当に楽しかったです。保育実習室でやった親子遊びだったり、読み聞かせなどは本当に得るものが大きかったです。私の心に響きました。私の理想の保育士像が少し見えてきた気がします。この4日間でたくさんの初めてに出会えて良かったです。あと何をするときにもその環境について先生は意識しているなどと思いました。本当に子どもが好きで、子どものことを思った行動を常にできているんだと感じました。この集中講義で先生みたいな先生になりたいと思う節がたくさんあったので、これからの実習などで実際に挑戦してみようと思いました。4日間ありがとうございました。楽しかったです。【学生 27】座学のスライドでみたことを実際に保育実習室で身体を動かしてやることで、楽しさや交流のしやすさを実感することができました。とても勢いのある話し方でおもしろく、実践の活動も楽しかったです。【学生 28】精神保健の授業は、座学のみだと勝手に思っていて、演習と座学を半分ずつ行う授業だったので、よりためになりました。寄り道散歩では普段はあまり気にもとめないような場所に改めて行くことで、その時にしか見ることのできない発見や“ここは何かにつかえるかな”という疑問にもつながりました。演習での身体遊びや手遊びも楽しかったです。4日間ありがとうございました。【学生 29】授業で、たくさんの演習を経験することができた。親子でできる遊びが1番演習の中では印象が強かった。実習では子どもだけである遊びなのでお母さんと一緒にする何かをする設定というのがとても新鮮だった。【学生 30】最初、ずっと座学で4日間受けるのかと思っていましたが、実際は、絵本を読んだり、手遊びしたり、身体を動かしたり、映画を見たりと、座学以外にも学び方がたくさんあり、あっという間の4日間でした。実践、知識共にたくさん学ぶことのできる4日間でした。子どもの知識が増えたと、より興味もわきました。短い期間でしたがありがとうございました。【学生 31】精神保健で学べたことは“自分自身がその人のきもちになってみてどういったような反応や行動を起こすかを先に考えて接することが大切”ということです。自閉症やアスペルガー症候群の人はもちろんですが子どもを中心にした親の気持ちに寄り添ってあげることが第一だと思いました。またこれまでの講義では自分対幼児たちといった自分が発信して大勢の子どもと遊ぶといったことを学んできましたが親子教室の様な一対一の遊びというのはした事がなかったのでとても新鮮で自分の身になった演習だったと思います。遊びの中で子どもはたくさんのことを考えて学んでいくので親がすべて模範解答を教えて行動させるのではなく子どもに周囲の状況や自分が今どうしたらいいのかなどを頭で考えさせるのが良い教育になっていくのだと思いました。この精神保健の授業は映像をもとにした先生の解説がわかりやすくとても頭に残るような講義でした。一つの題材に対して何度も同じような例を見せて記憶させるというまさに長期記憶として残りやすくなっているようなものだったと思います。【学生 32】この集中講義で、おさんぽや絵本、手遊び、新聞をつかった演習がとくにたくさん学べて楽しかったです。授業全体を通して、糸田先生の経験談がとても聞けて、教科書通りのことではなく、事例を聞けて、未来の保育者像を学ばせていただきました。すごくためになりました。興味深く、面白い授業をありがとうございました。【学生 33】集中講義を受け、私は、色んな知識を自分のものにすることができました。寄り道散歩を体験してみて、こんな散歩の仕方もあるのだなど、思いました。糸田先生の授業は、とても参考になることばかりで、すごいなと思いました。15コマの授業を普通ならば半年かけてじっくり学ぶものを4日でやると知ったときは、未知すぎて、頑張らないとと、不安に思っていたのですが、受けてみると、とても楽しく、難しい用語や説があっても毎回わかりやすい事例を用いながら説明していただいたことでとてもわかりやすく理解することができ、今思えばあっという間で、まだ受けていたいなと思いました。とても良い時間をすごすことができました。4日間ありがとうございました！

【学生 34】とても楽しかったです。ありがとうございました！ 先生が笑顔でお話ししてくれて、こちらも楽しい気持ちになりました。私も笑顔を忘れずに人や小さい子に関わっていきたいです。【学生 35】全体を通して、座学と実習室での実践がちょうどよくあって ほどよい感じで取り組むことができました。特に絵本を使用しての授業は、あんなにたくさん絵本を並べての授業なんてありませんから、絵本好きとしてはテンションが上がりました。絵本カフェみたいなお店が開けそうです。この4日間かなり濃い体験をしたなと思っていて、私もよくわからないまま授業をとってしまったのですが にとってよかったなと思います。【学生 36】今回の精神保健で普段あまり学べない親と子の愛着などを学ぶことができました。講義を通して子ども以外の親の精神面や社会の変化などを学ぶことができました。とても楽しくわかりやすく学ぶことができ、もっと心理について興味をもつことができました。集中講義以外にももっと学んでみたいです。4日間ありがとうございました。【学生 37】レインマンは先生に解説していただきながらだったのでより分かった気がします。この映画を見れたことはすごく良かったなと思います。今回の精神保健の授業では、座学だけでなく実習も取り入れて下さり、とても充実した時間になりました。また、先生の明るいキャラクターや柔軟な考え方はとても尊敬できるなと思いました。“先生は人を楽しませるプロなんだな”と思いました。特に、新聞遊びを実際にやってみることで、よりその楽しさや目的を理解することができまし、周りの友人を見て“こんなふうにしめる保育科っていいな、すごいな”と改めてみんなが大好きになりました。私は特に絵本の凄さ、素晴らしさを知ることができ、感動しました。短い時間でしたが、本当にありがとうございました。【学生 38】“動”と“静”の動きを交えた保育実習室でのあそびがとても楽しかったです。上手くバランス良く組み込むことで飽きのこない時間を作れるのだととても勉強になりました。先生の絵本の読みかかせは本当に好きでした。【学生 39】今回精神保健を学び、以前にも習ったことのあることでも新たに発見するものがあったり、考え方が変わることがいくつもありました。絵本を盛大に読むところや手遊びのアレンジなど、常識やかたい考え方にとらわれない保育の仕方を感じることができました。力づくで押さえたり、恐怖心や恥から教えこむような保育ではなく一人一人に合った保育、一人一人を考えた保育を実践します。もっともっと書こうと思っていたことがありましたが書けず悔しいです。障害に関する興味もわき、ぜひ関わってみたい、もっと知りたいと思いました。【学生 40】エクササイズ、絵本、つまり動と静で子どもは集中することを、身をもって体感しました。親子でただ運動するだけではなく子どもに考えさせながらするというのもとても勉強になりました。どの授業も学ぶことが沢山ありました。

5. 考察

「座学は重要である」と溝上 (2014) も述べている。「精神保健」の座学で使用するスライドにはすべて動画か写真か図か漫画か挿絵をペーストし、文字だけしかないスライドは作らないなどの創意工夫を行い、座学の講義にももちろん大きな力を注いだ。貞方宏 (1991) による難解だが優れた考察「行為の喪失の時代」の読解 (“読む”) も文献講読の形をとって座学で行った。私語などはみられず、より深い学びが認められた。

視聴覚教材の使用では自閉スペクトラム症 (ASD) の映画『レインマン』を取り上げたが、神経発達症にかかわる解説をつけて映画の一部分を観るか全部を観るかについての決定を学生側に委ねてみたところ、一部に止まらない全編の視聴希望が学生の側から能動的に示され、細部まで真剣に観て深く考えてもらえた。

他に授業がない時期であり、講義室のみならず実習室も交互に使用させていただけたことから、実習室では前頭葉の発達を促す創造的な手遊びや身体を使った遊び、ルールがあるからこそ楽しめる社会情動的スキル遊びなどの学習とそのデモンストレーションも小グループによるグループワークを交えて実施可能であった。さらに、選りすぐりの優れた絵本を大量に実習室へと搬入して部屋いっぱい並べ、絵本とその読み聞かせに関するレクチャーと小グループによるグループディスカッション、読み聞かせをし合ったりその感想を述べあったりする (“発表する”) 演習も行うことができた。

座学だけにとどまらず実際に活動や体験をするということでは、実務家出身教員という職業経歴を活かして、親子遊び方教室などの実際の進め方のロールプレイや寄り道散歩マップ製作のための大学キャンパス内外の保育環境の探索・発見といったフィールドワークも実現できた。「A+」の評定にかかわって“寄り道散歩”と名づけられた実践にかかわる保護者向けの“お便り”の作成もレポート課題に付加されたことで、

他者に教える（“書く”）ことも経験していただけた。

受講学生たちからは「実際に動いて体験する場面も多く、楽しく参加できた」「アクティビティがたくさんあって楽しかった」「改めて身体を動かすことの大切さを学んだ」「座学だけではなく積極的に演習も取り入れ、楽しく学ぶことができた」「考えるだけでなく体験して身体全体でわかることを知ることができた」「講義と実習があって、受けていくうちに2つはつながっており、講義で学んだことに関わることとして手遊びや親子遊びが設定されていたので、とてもわかりやすかった」「キャンパスの外に出て遊びをさがしてみると、わくわくするようなものがたくさんあった」「座学以外でもたくさんの学びがあってとても濃い4日間になった」「座学もエクササイズもたくさんある充実した4日間だった！」「驚きの連続だった。正直、今までに受講したことのないような内容だった」「座学のスライドでみたことを実際に保育実習室で身体を動かしてやってみることで、楽しさや交流のしやすさを実感することができた」「演習と座学を半分ずつ行う授業だったので、よりためになった」「たくさんの演習を経験することができた」「座学以外にも学び方がたくさんあり、あっという間の4日間だった」「座学と実習室での実践がちょうどよくあって ほどよい感じで取り組むことができた」「座学だけでなく実習も取り入れて、とても充実した時間になった」などのコメントが寄せられ、“認知プロセスの外化”が窺われた。

集中講義科目「精神保健」にアクティブラーニングを導入する研究授業の実践を試みた成果は、教育心理学的にみても効果的で好ましい結果になったと考えられる。

6. おわりに

当初は2018年度をもって廃止されるはずだった旧カリキュラムの「精神保健」であるが、新2年生に対しても2019年度にもう一度だけ開講が予定されている。そこではアクティブラーニングの要素をさらに加速させたプログラムによる実践的な研究を、2018年時以上に強く意識して行い、地球の未来を担う子どもたちにアクティブラーニングも伝授していきける現代的な保育者や教育者の養成を積極的に推進していきたい。

謝辞

最近までアクティブラーニングに消極的であった筆者が変容する契機となった溝上慎一氏による特別講義を本学で企画・実現してくださった名寄市立大学保健福祉学部関朋昭教授に深く感謝しお礼申し上げます。

引用・参考文献

- 安藤寿康 2018 『なぜヒトは学ぶのか：教育を生物学的に考える』 講談社
- Gray, P. 2013 Free to LEARN : Why unleashing the instinct to PLAY will make our children happier, more self-reliant, and better students for life. Basic Books. (吉田信一郎訳 2018 『遊びが学びに欠かせないわけ：自立した学び手を育てる』 築地書館)
- 小針 誠 2018 『アクティブラーニング：学校教育の理想と現実』 講談社
- 貞方 宏 1991 「行為の喪失の時代」 北海道乳幼児療育研究会 『乳幼児療育研究 第4号』 pp.85-90
- Pritchard, A. & Woollard, J. 2010 Psychology for the classroom : Constructivism and social learning. Routledge. (田中俊也訳 2017 『アクティブラーニングのための心理学：教室実践を支える構成主義と社会的学習理論』 北大路書房)
- 溝上慎一 2014 『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』 東信堂
- 溝上慎一 2015 「アクティブラーニング論から見たディープ・アクティブラーニング」 松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター 『ディープ・アクティブラーニング：大学授業を進化させるために』 勁草書房 pp.31-51
- 溝上慎一 2018a 『アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性』 東信堂
- 溝上慎一 2018b 『学習とパーソナリティ：「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよ！」をどう見るか』 東信堂

本研究の一部は2018（平成30）年11月3日に開催された現代行動科学会第35回大会において発表した。